

No. 83

2020/12/15 日本指笛協会発行

$\flat$ $\text{♪} \text{♪} \text{♪} \text{♪} \text{♪} \text{♪}$ $\sharp$ $\text{♪} \text{♪} \text{♪} \text{♪} \text{♪} \text{♪}$ $\flat$ $\text{♪} \text{♪} \text{♪} \text{♪} \text{♪} \text{♪}$ $\sharp$ $\text{♪} \text{♪} \text{♪} \text{♪} \text{♪} \text{♪}$ $\flat$

*** 目次 ***

- 頁 -

1. 今年を振り返って、来年への展望	中村 倫二	- 1 -
2. 「指笛演奏ポケットブック」のご紹介	倉木 成伊知	- 1 -
3. 高野辰之記念館を訪ねて	有吉 憲行	- 2 -
4. 春の小川歌碑を求めて	有吉 憲行	- 6 -
5. 事務局からのお知らせ	事務局	- 7 -

1. 今年を振り返って、来年への展望

日本指笛協会会長 中村 倫二

令和2年の新年を迎え、最初に飛び込んだニュースが中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルスが検出されたとの発表でした。その感染状況の報道は11月末日の今日まで一日たりとも報道がなされなかった事はなく現在に至っております。

日本指笛協会が計画した年間行事は、3月の「浅草木馬亭」における第28回「お楽しみ演芸会」の片山陽一氏出演の1件のみに止まり、以後計画されたすべての行事が中止になったことはご承知の通りであります。コロナに始まりコロナに終わることは間違いありません。

新型コロナウイルスの「第3波」の感染拡大が始まったばかりで、その終息が見えない状況の中で言えることは、会員各位が日々の感染対策を計りその当事者にならないことです。日本中が、いや世界中が初めて経験している現状を承知し、静観するしか無いと考えます。

会員の皆様にあつては「健康第一」と、与えられたそれぞれの環境の中で「日々の練習」を欠かさないことです。

来年の目標は10月23日（土）の87周年記念演奏会の成功です。

2. 「指笛演奏ポケットブック」のご紹介

倉木 成伊知

最近、小学生に、月に1回、1年間、指笛を教える機会がありました。興味を持って集まってきた子供たちに、吹き方を教えますが、なかなか音が出ません。結局、音が出るようになった子は一人もいませんでした。この体験から、舌の上に指をのせてスースー吹いている生徒に、どのように指導したら音が出せるようになるだろうかと思案を重ね、「指笛演奏ポケットブック」を作りました。

特に、外からは見えずに一番教えにくい口の中の舌と指の関係を、できるだけわかりやすいようにと図解を工夫しました。初級編（クリアな音を出そう）に続き、音が出るようになった人たちのために、中級編（メロディーを吹こう）、上級編（音楽性を高めよう）も作りました。

今回は、この楽友会通信に、初級編の実物を同封して送っていただきます。一人でも多くの人が音を出せるようになることを願っています。ぜひご活用ください。

3. 高野辰之記念館を訪ねて

有吉 憲行

私たちは2018年6月に長野県を旅行しました。長野県中野市大字永江1809には、文部省唱歌「故郷」の作詞家として知られている高野辰之記念館があります。(左の写真)



記念館の内部は小学校の音楽教室風になっており、オルガンやピアノと黒板がありました。スクリーンには 高野辰之博士の生涯が上映されました。壁には高野辰之氏の写真やプロフィールが展示されています。

「故郷」を歌った文部省唱歌の名コンビ
作詞家 高野辰之・作曲家 岡野貞一の

歌詞や楽譜も展示されています。

お二人（高野辰之・岡野貞一）コンビの歌として例えば、日の丸の旗、春の小川、故郷、朧月夜、春がきた、紅葉などがあって、小学生の頃を懐かしく思い出せる場所でした。

高野辰之記念館を見学した後、近くを散歩しました。

火の見櫓の方へ進むと、道路左側に高野辰之博士の生家が見えてきます。

大きな立て札があって直ぐ目につきました。
(右の写真)



立派なお家で、庭も広く感じられました。



また道路を進み、永田郵便局を過ぎた場所の右側に真宝寺があります。この寺の梵鐘は「朧月夜」に出てくる“かねの音も”の鐘だそうです。

真宝寺の鐘つき堂の直ぐそばに左図写真のような「おぼろ月夜」の歌詞と解説がありました。



真宝寺を通り過ぎて、進むと橋が見えてきます。この橋は“ふるさと橋”と名付けられています。

この橋には仕掛けがあって、欄干にある音板を左から右へ順番に“マレット棒”でたたくと、木琴のような音が発生して、“うさぎおいしかのやま・・・”と「故郷」を奏でるのです。



この工夫された仕組みが面白く、私たちは何度も音板をたたいたのでした。

高野辰之記念館を皆様方が訪れましたら、この“ふるさと橋”まで足を運んで、音板たたきを体験されると良いと思います。

なお“ふるさと橋”の欄干には「故郷」の楽譜も展示されています。

(右の写真)

皆様方既に、良くご存じの通り「ふるさと」は日本人の大勢の方々に親しまれ、歌われてきました。

懐かしく有名な愛唱歌です。



左の写真は家内が欄干にある音板を備え付の“マレット棒”でたたき、「故郷」を演奏しているところです。

橋の下から吹き上げる風によって、日傘が空の方へ曲がってしまいました。

この橋の下には小川が流れていて、「春の小川」の歌碑がありました。その傍で、小生は記念写真を撮りました。(右の写真)

春によく歌われる「春の小川」も皆様方に知られた唱歌です。

東京にも「春の小川」歌碑があります。それは次の章で説明したいと思います。





「春の小川」歌碑のところから、
Uターンして散歩道を高野辰之
記念館の方へ戻りました。

記念館の裏手には、秋の愛唱歌
「紅葉」の歌碑がありました。
左の写真がその歌碑です。

こうして楽しく、高野記念館を
見学散策した後、バスに乗り、私
達は信州中野駅に向かいました。

この日は中野市に泊まり、翌日は同じ中野市にある、中山晋平記念館（長野県中野市大字
新野 76）を訪ねました。中山先生は童謡・唱歌・歌謡曲など沢山作曲しました。



中山晋平記念館前庭には、野口雨情作詞・中山晋平作曲の「シャボン玉」像（上の右側の
写真）がありました。

記念館内には、中山晋平ゆかりの資料や作品集が沢山展示されています。またリスニ
ング・コーナーがあって、中山メロディーの世界に浸れます。なおスクリーンでは中山晋平の
経歴などが上映されていました。

長野県中野市には、このように 高野辰之・中山晋平などの音楽家を育んだ良い音楽風土
があるのだなあと、思いつつ東京へ帰ったのでした。

4. 春の小川歌碑を求めて

有吉 憲行

2008年12月7日のこと、小田急線・参宮橋駅近くの旧オリンピック村、今はオリンピック記念青少年総合センターで、指笛の吹き方講習会が開催されました。講習会の詳しくは楽友会通信 No. 35号 2008年12月19日発行の、竹中さんの記事にあります。当日、指笛指導に参加した講師の方々は、斎藤秀元、松谷茂、塩谷彰宏、竹中速雄、河津菊枝、有吉憲行、有吉潤子の7名でした。

指笛教室を済ませた私達楽友会メンバーは、参宮橋駅への帰路に立つ電柱に「春の小川」歌碑ありと、表示があるのを知りました。そこで、数人が小田急線の線路近く住宅街までも探しましたが、碑を発見できなくて残念な思いをして帰ったことを覚えています。

近くにいた住人のご婦人に「春の小川」歌碑は何处ですかとお聞きしますと、代々木八幡駅近く線路東側の線路際だと言うことでした。



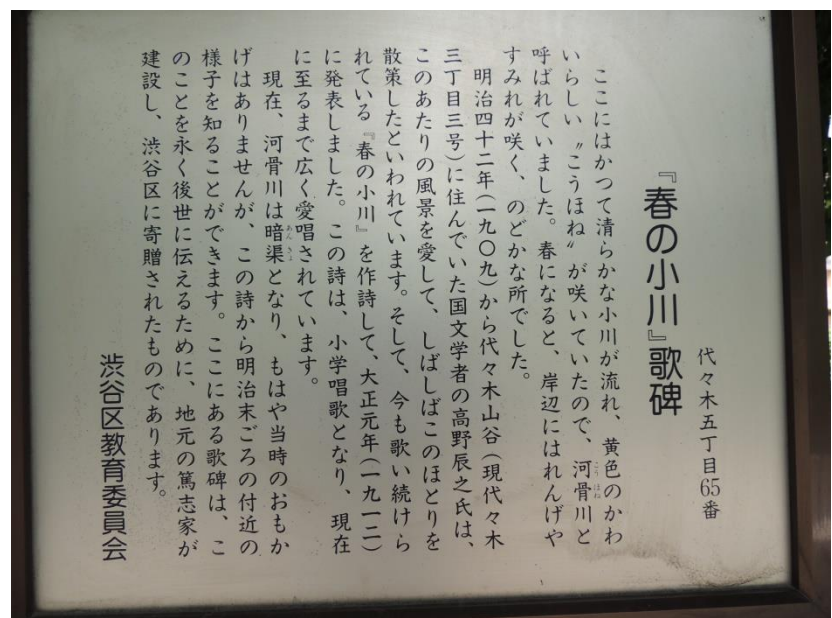
2015年の5月、私は新宿へ向かう途中、小田急線の代々木八幡駅で下車して、線路東側の小道を参宮橋駅方面に向かって歩いた。途中の電柱には 春の小川[↑] の表示があった。(左の写真)

数百メートル歩いてまもなく小公園あり、つつじの花が咲いていた。「春の小川」歌碑に到着した。

案内立て札と黒い御影石に刻まれた歌碑を見つけて写真に撮った。

数年前に探したが見つからず。やっとの思いで見つけた今回は「春の小川」歌碑に感動した。昔ここは小川が流れ作詩者が散歩したのであろう、今は都会化されて昔の面影はない。

車の往来があり、歌碑の裏面は建立者の名が刻まれていた。時折小田急電車がそばを走る。





このような有名な歌碑が保存されていることに感心しました。

住所：東京都渋谷区代々木 5-65 をパソコンに入力し、検索すると地図が表示されます。

5・事務局からのお知らせ

事務局

1. コロナの先行きは不透明ですので、現時点の状況下での見解です。
 - ・総会は書面のみで行う。 ・新年会は中止する。
 このため会員宛ての出欠問い合わせ「ハガキ」は同封されていません。
2. 2021 年の「指笛音楽 87 周年記念演奏会」は 2021 年 10 月 23 日（土）に練馬文化センターで開催予定です。

編集後記：有吉 憲行

中村様、倉木様 原稿を有難うございました。事務局中澤様にもご意見を頂き、お礼申し上げます。

私も今年はコロナ禍のため指笛活動が出来ませんでしたので、この楽友会通信 83 号には 2018 年初夏の頃、私たちが長野県中野市へ旅行したことを記載しました。しかし気がかりなのは 2019 年秋に襲来した台風によって、長野県は千曲川が氾濫し、中野市も大洪水災害に遭ったと聞いております。その後、記念館はどうなりましたか、気になるところです。

私は指笛楽友会を今年 2020 年 12 月で退会することにしました。1997 年 1 月に入会して 23 年間になります。寄る年波には勝てません、高齢（85 歳）になって、耳が遠くなってきたからです。補聴器をつけても皆様方とのお話は良く分かりません。聞き間違いなどのご迷惑をおかけしたのではないかと思います。ご了解ください。なお、家内（有吉潤子）も同時に退会させていただきますので、ご了承ください。

2007 年 11 月に、楽友会通信の 31 号を担当して以来、毎年欠かさず指笛「楽友会通信」の冬号を編集して発行してきましたが、今回 2020 年の担当 14 回目で編集発行も辞めることにしました。来年以降は何方かにお願いします。

中村会長はじめ皆様方には、大変長い間お世話になりました。厚くお礼申し上げます。